



総合資料館だより

2004.1.1 No.138



「親子猿」と「桃持ち猿」(高さ13cm)

伏見人形の「猿」

猿は、古くから親しまれている動物であることから、日本各地の郷土玩具のなかに登場します。いろいろと面白い型のものや、優れたデザインのものが多いです。庚申信仰などのように山の神の使者としての信仰がもたれ、また、猿の啼き声「キキ(喜喜)」にちなみ、縁起がよいとされています。

この伏見人形の猿たちは、よく個性がとらえられていて、茶目っ気たっぷり。まことに微笑ましく、今にも動き出しそうです。

当館蔵(京都文化博物館管理) ^{みけ} 脳 コレクションから

目次	伏見人形の「猿」1	平成16年知事年頭あいさつ2
	最近の収集資料から3	開館40周年記念連続講座、府民講座のご案内 他 ...4
	文献課の窓から「歌舞伎隈取集」.....5	歴史資料課の窓から「江戸時代の『京都御所正月一般公開』」 ...6
	収蔵品展のお知らせ、友の会事務局から 他8	

平成16年知事年頭あいさつ



京都から「人・間中心」の社会に向けて

京都府知事 山田 啓二

府民の皆さま、新年明けましておめでとうございます。

長引く不況の中、依然として続く雇用不安など、私たちを取り巻く社会・経済の環境は厳しく、加えて、青少年犯罪の凶悪化、SARS事案や硫酸ピッチ等の産業廃棄物の不法投棄問題など、様々な不安要因が、私たちの生活や安全を脅かしつつあります。

こうした中、私どもは、府民の皆さまの生活の安心・安全の確保を府政の最優先に掲げ、全国に先駆け、「あんしん借換融資」を創設し、硫酸ピッチの規制条例を制定するなど、これまで様々な緊急対策を行ってまいりました。厳しい財政状況の下ではありますが、私どもの最大の目的である「住民福祉の向上」を図るため、今年も全力をあげて取り組みたいと思います。

また、明日の京都の発展のため、未来を担う子供たちのために、緊急対策と同時に、「新京都府総合計画」を基本としたアクションプラン等に基づき、複数の教師によるチームティーチングの本格導入、乳幼児医療助成制度の拡充、産学公連携機構の創設、緑の公共事業の推進など、「人づくり」、「活力づくり」、「安心・安全づくり」を府政の柱として、21世紀の京都府づくりに邁進してまいりました。

今後さらに京都が21世紀に心豊かな社会となるためには、「もの」すなわち物質的な豊かさを追求するだけでなく、今一度「ひと」をしっかりと見据えて、これからの京都府づくりに当たる必要があると思います。

幸い京都には、優れた人材や悠久の歴史・文化に裏打ちされた多くの資源があります。京都の「人」を大切に、失われつつある人と人のつながりをもう一度取り戻し、京都の持つ「力」を最大限に生かすことが、京都の再生につながるものと固く信じています。

私は、これからの京都を担う「人」に投資し、人々の「活力」を高め、そして、人々がいきいきと交流できる基盤を整備することにより、『人がいき、産業が活き、自然が生きる「人・間中心」の京都を築く』、これをこれからの府政の大きなテーマに掲げたいと思います。

私は、京都の持つ「力」を信じ、府民の皆さまの明日への思いを「人・間中心」の京都府づくりの中で、実現してまいる覚悟です。そのために今年も「挑戦しなければ前進はない」という決意で取り組みますので、皆さまの変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。

新年にあたり、皆さまのご健勝、ご多幸を心からお祈りいたします。

図書資料

京都

巨椋池ものがたり 巨椋池ものがたり編さん委員会編 久御山町教育委員会 2003 254,13p 寄贈

もっと知りたい!水の都京都 鈴木康久・大滝裕一・平野圭祐編 人文書院 2003 216p

京都の地域金融 理論・歴史・実証 湯野勉編著 日本評論社 2003 190p (竜谷大学社会科学研究所叢書 第49巻)

女たちの京都 史跡をたずねて 京都歴史教育者協議会編 かもがわ出版 2003 221p

京都中学校の歴史 わが母校よ永遠なれ 京都高等学校理事会編刊 2003 95,27p 寄贈

京二商史 同窓会発足九十周年記念 京二商史編集委員会編 大来会 2003 288p 寄贈

竹田の子守唄 名曲に隠された真実 藤田正著 解放出版社 2003 167p

京の医学 慈仁の系譜と府立医大の草創 川端真一著 人文書院 2003 231p

中近世都市形態史論 土本俊和著 中央公論美術出版 2003 533,26p

琵琶湖疏水の散歩道 明治のロマンを求めて 中西一彌著 京都新聞出版センター編刊 2003 225p 寄贈

大工頭中井家建築指図書 中井家所蔵本 谷直樹編 思文閣出版 2003 385p

人文

国立国会図書館関西館の建築 陶器二三雄著 平野湟太郎・安藤剛史/編集・デザイン制作 渡辺洋・世羅洋子/訳 丸善 2003 175p

日本書誌学大系 91 寛永版書目并図版 後藤憲二編 青裳堂書店 2003 281p

実如判五帖御文の研究 影印編・研究編(上・下)・資料編 法蔵館 1999~2000 4冊 寄贈

徳川実紀事項索引 上・下巻 吉川弘文館編集部編 吉川弘文館 2003 2冊

徳川幕府事典 竹内誠編 東京堂出版 2003 583p

写真記録パレスチナ 2 広河隆一編著 日本図書センター 2002 207p

展覧会カタログの愉しみ 今橋映子編著 東京

大学出版会 2003 249p

日本人と茶 その歴史・その美意識 特別展覧会 京都国立博物館編刊 2002 362p 寄贈

肖像画賞 人のすがた人のことば 特別展 大阪市立美術館編刊 2000 177p 寄贈

水辺の風景 独立行政法人国立博物館・国立美術館巡回展 京都国立博物館・京都国立近代美術館編 京都国立博物館刊 2002 80p

香道の歴史事典 神保博行著 柏書房 2003 452p

官庁

人権教育・啓発白書 平成13年度人権教育及び人権啓発に関する施策についての年次報告 平成14年版 法務省・文部科学省編 財務省印刷局 2003 181p

日本的組織の再構築 アンシャンレジーム(旧制度)からの脱却 経済産業省商務情報政策局編 経済産業調査会 2002 255p

配偶者等からの暴力に関する調査 平成15年4月 内閣府男女共同参画局編 国立印刷局 2003 173p

京都市價一覧 平成14年度末現在 京都市編刊 [2003] 333p 寄贈

京の道 Roads of Kyoto 国土交通省京都国道事務所編刊 2003 25p 寄贈

芸術文化の都づくりプラン 京都市芸術文化振興計画推進プログラム 市民が創る華やぎのある都市生活 京都市文化市民局文化課編刊 2003 57p 寄贈

淀川水系鴨川浸水想定区域図 京都府編刊 2003 1冊

おかげさまで大阪市営交通創業100年これからもよろしく 1903明治36年 - 2003平成15年 大阪市交通局編刊 2003 119p

文書資料(新しく公開する資料)

千吉西村家文書・乙 京都市中京区の法衣商西村家に伝来した文書36点。明和2~明治42年。同家は法衣仕立販売、西陣織販売、問屋、金融業を営んでいた。家、町に関する文書。平成14年度に公開した千吉西村家文書の第2次公開分。寄贈

木下家文書 近世山家藩の大庄屋の木下家に伝来した文書132点。元禄~明治期。証書類、地券御渡願控、山家藩諸事覚(享和~文政頃)。マイクロ収集

開館40周年記念連続講座「京の遊楽」を開催しました



丸山宏氏



横山健蔵氏



廣瀬千紗子氏



片岡秀太郎氏

11月14日(金) 丸山宏氏

「近代京都の遊楽空間 - 円山公園をめぐる - 」

京都の代表的な公園、円山公園を題材に、明治時代の公園設置の経緯や、当時の京都府の都市政策などを、わかりやすくお話いただきました。アカデミックな講演でした。

11月20日(木) 横山健蔵氏

「写真家がみた歴史の風景

- 京都の伝統文化と風物 - 」

お話を交えながら、横山氏撮影の写真を見せていただきました。2台のスライド映写機で次々に映し出される、300枚を超える四季折々の京都の風景に息を呑む講演でした。

11月28日(金) 廣瀬千紗子氏

「遊山のたのしみと『都名所図会』」

都名所図会について、江戸時代に出版に至った経緯からその内容まで、歯切れのよい語り口でお話いただきました。往時の遊山に思いを馳せる講演でした。

12月4日(木) 片岡秀太郎氏

「上方歌舞伎の再生と四百年の魅力

- 仁左衛門歌舞伎から平成若衆歌舞伎へ - 」

歌舞伎の見方から歴史まで幅広く、随所に笑いも交えながらお話いただきました。若手の方による所作の実演もあり、華やかであると同時に、心に響く講演でした。

府民講座のご案内

本年春に、東寺百合文書翻刻出版の第1巻が完成することを記念し、次のとおり府民講座を開催します。

シンポジウム「東寺百合文書の魅力を語る」

平成16年3月25日(木) 午後1時～
基調講演及びパネルディスカッション
佐藤和彦氏(東京学芸大学名誉教授)
高橋敏子氏(東京大学史料編纂所助教授)
新見康子氏(東寺宝物館学芸員)
黒川直則(当館嘱託研究員)
池田好信(当館職員)

*受講ご希望の方は、受講希望日、住所、氏名、電話番号を明記し、3日前までにはがき又はFAXでお申し込みください。
〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4
京都府立総合資料館 庶務課
TEL 075-723-4831 FAX 075-791-9466

「古文書つれづれ&明治の京都」発行

開館40周年を記念して、「古文書つれづれ&明治の京都」を発行しました。

「古文書つれづれ」と「明治の京都」は、資料館だよりで昭和63年から連載してきたコーナーで、これまで連載した各27編に、「レファレンス・コーナー」13編を加えて、1冊の冊子にまとめました。

1冊500円(送料210円)で販売しています。詳しくは友の会事務局(総合資料館庶務課内 TEL 075-723-4831)までお問合せください。



所蔵資料紹介 歌舞伎隈取集



資料館では先日、開館40周年記念「総合資料館名品展」を開催しました。昨年は出雲の阿国が京都でかぶき踊りを踊ってからちょうど400年であったこともあり、当館所蔵名品の一つとして『歌舞伎隈取集』を展示しました。

この資料は日本画家堂本印象の兄で、京都新聞社の編集長、松竹の宣伝部長などを歴任し、上方演劇・芸能の研究家として著名な堂本寒星氏が集められた図書や雑誌、歌舞伎番付の中の1点です。氏にゆかりのある京都府で保存し、芸能研究上有効に活用してほしいとの趣旨で、昭和61年に御遺族から当館に寄贈されました。

『歌舞伎隈取集』は、河童や孫悟空などの珍しい隈取りをはじめ、19.4cm×17.4cmの大きさの木版色摺画が50枚、折帖に貼り付けられた興味深いもので、この資料は国際日本文化研究センターと当館しか所蔵が確認できず、大変貴重なものといえます。残念ながら著者名や出版社などの詳しい書誌情報は無く、隈取りの絵に「小信筆」という署名と落款があるだけでした。『浮世絵事典』によると、この号は上方の浮世絵師として有名な長谷川家で使われている号であることがわかりました。

浮世絵というと、今日では江戸の浮世絵が有名ですが、京阪にも上方浮世絵というものが存在していました。この長谷川家は文化6(1809)年に生まれた長谷川貞信が初代です。彼は最初、四条派の上田公長こうちよう、のちに歌川貞さだ

ますま升すに絵を学びました。上方名所絵の創作において非凡な才能を発揮し、かつての浪花風物を情緒豊かに描き残しています。その長男が初代小信で、明治初年の大阪、神戸の文明風俗や欧風文物を多く描いています。また後には芝居番付も手がけるようになりました。彼が明治8年に二代目貞信を襲名した後、「小信」という号は弟が名乗るようになります。しかし二代目小信は明治19年、27才の若さで急死してしまい、「小信」の号は一時途絶えますが、初代小信の長男が明治24年ごろから三代目小信を名乗るようになりました。三代目小信は道頓堀各座の番付や立川文庫(大阪で刊行された小型の講談本)の口絵等を描き、昭和16年、三代目貞信を襲名し、昭和38年に亡くなりました。以後「小信」の号は、代々父子相伝として受け継がれています。

館蔵の『歌舞伎隈取集』の絵師が小信の何代目に当たるのかは、出版年がある程度わからないと特定が出来ません。蔵書目録では、明治期の出版かと推定されていますが、落款や画風でも何代目が描いたかはっきりとはわかりません。ただ、三代目が小信として活躍した時期が一番長く、役者絵や番付なども多く描いていたことなどから推測すると、この隈取集の画家は三代目小信ではないかというのが現在の段階での結論です。

隈取りのみを集めた画集はあまり例がなく、上方浮世絵師によって描かれたものになるとさらに貴重であるといえるでしょう。この資料は閲覧室でもご覧いただけます。



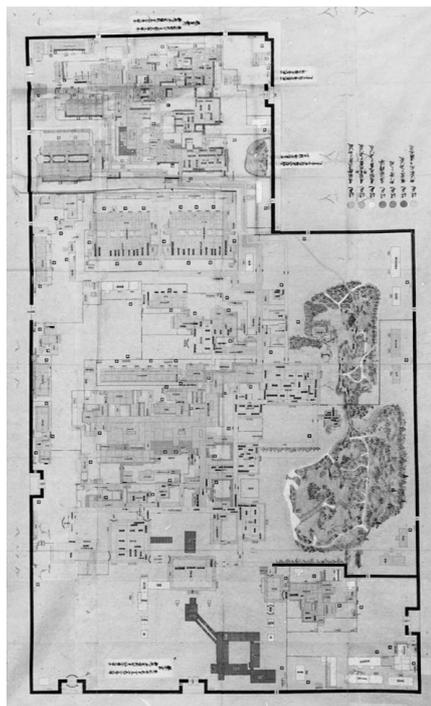
江戸時代の「京都御所正月一般公開」 - 旗本の「(二条城米蔵) 版御役中日記」から -

現在、京都御所（以下御所）は、春と秋に一般公開が行われ、紫宸殿や清涼殿等の見学ができます。この公開は戦後に始まったそうですが、実は江戸時代にも行われていたようです。今回は、その一例として、江戸から赴任してきた旗本の日記（次頁）からその様子をご紹介します。

旗本は、松崎権三郎という人物で、松崎の日記は享保16(1731)年正月の1か月分です。松崎は、二条城内外にあった米蔵（御蔵）に勤務していました。米蔵の役職には蔵奉行があり、長期に勤務する本役と、1年交代の仮役にわかれていました。松崎は仮役でした。

では江戸時代の「一般公開」の様子を見ていきましょう。なお御所は、江戸時代数度の火災で焼失しており、松崎が見聞したときは、宝永(1704～11)期に再建された御所(右写真)です。

正月10日、余寒が強い朝六半時(午前6時頃)に出勤して、養源院(現東山区)へ同僚と拝礼に出かけ、そのほか鈴木などの代官への年礼を終えた後、御所の紫宸殿において行われる玉体安穩、国利民福を祈る真言秘密の大法会の御修法護摩(後七日の御修法)の見物に出かけます。この法会は7日から13日までであり、その期間、諸人(一般人)に拝見させるという「一般公開」の連絡があったようです。



享保11(1726)年「宝永度禁裏・親王御直廬・女御御里・春宮諸御殿指図」(中井家文書)

御所に着くと、警備等は同じ旗本が勤める禁裏附の桑山丹州(丹後守)の組同心が担当していました。東にある日御門より入って、公式の儀式が行われる紫宸殿へ上がってみると、熨斗目上下を着ている者は侍ばかりでした。

御庭は白川の沙石(砂石)、右に離れて内侍所があって十八間の長い廊下が

架けられ、階(階段)、縁、柱、屋根、欄干、御簾等まで、源氏(源氏物語)の絵に変わらない、そっくりだ、と驚いています。

さらに紫宸殿には天井、畳がなく、板敷きで、奥の賢聖の障子は白張りに絵像があり、上部に名と姓が近衛(公家)殿の筆で書かれており、四面に釈迦と仏の七仏と十二神将の大掛け物があり、左右に大(胎)蔵界曼荼羅と金剛界曼荼羅が掛かっていて美麗荘厳で言葉に尽くせない、とまた感嘆しています。

公家衆、出家(僧侶)も休息の間にいるようで、そこにはいませんでしたが、参詣の男女は多かったようです。

天皇の日の御座(御帳台)にはみどり色のすだれの翠簾がかかり、内側に屏風があり、6畳敷程の広さ、御簾(翠簾)のうえには、大横物の掛け物が掛けられ、その絵柄は極彩色で、琵琶湖の北部にある竹生島のように海中に山があり、青龍がとぐろを巻いている様子、そのほか御修法の護摩壇は二つ、日の御座に敷かれる畳の縁は紅、僧侶は蒲の円座に着座、階段の下に右に橋、左に大木の桜、など細かく見聞しています。

次に紫宸殿の続きで西の方にある清涼殿、ま

- 進む府立大学・総合資料館共同研究 -

今回ご紹介した日記は、平成13年度から開始された京都府立大学と当館との共同研究によって解読されたものです。共同研究は中世・近世・近代の3部門にわかれ、館蔵資料を研究して、府民の方々へわかりやすい形で還元することを目的としています。

今回の日記は、近世部門の水本邦彦教授・大学院生・当館職員が解読したものです。現在も、広域的に利用が見込まれる京都町奉行所の文書(町代日記等)の解読と背景となる社会の研究が進められています。



た公卿の陣の座など見聞は続きます。

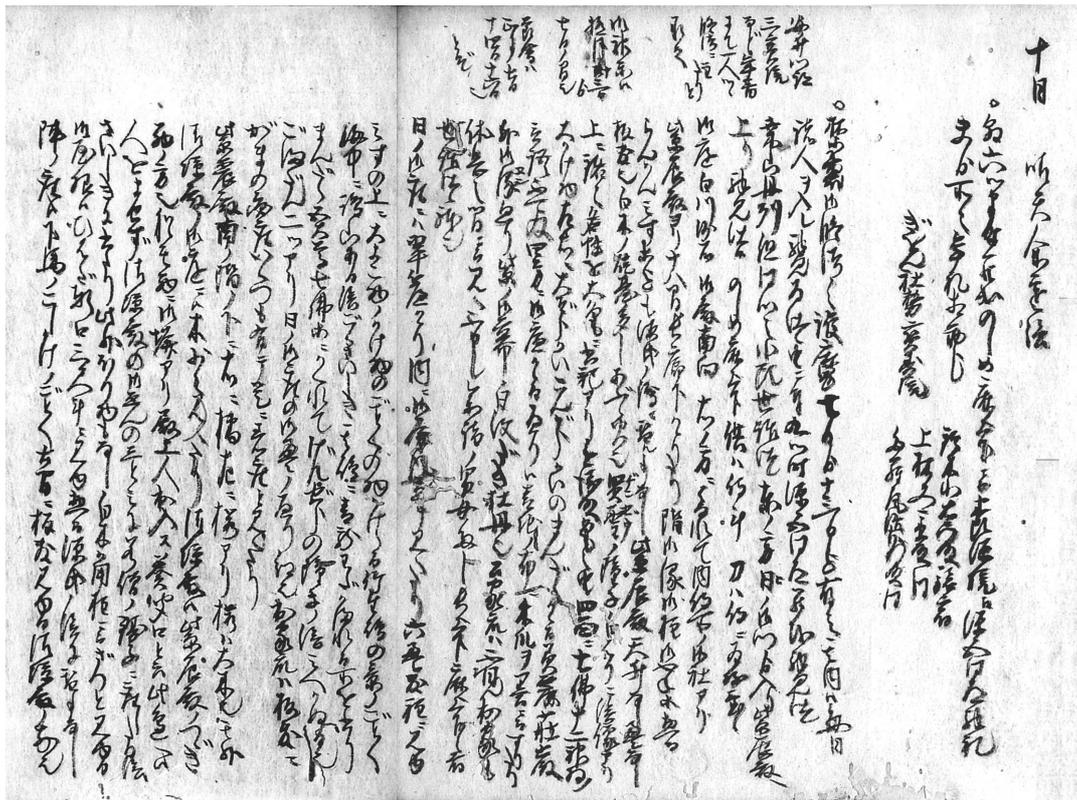
以上が、松崎の「一般公開」において驚き見た見聞の内容です。特に御修法護摩の舞台設定が目に見えるようです。

その他、日記には、山城、河内、摂津、丹波、和泉から納められる担当代官ごとの年貢の石高や、納められた米の検査の模様などが記されて

います。米蔵に関する記録が全くといって現存しない状況のもと、1か月分の記述ですが、京都に勤務する旗本の様子などと併せて知る上で貴重な記録です。今後の研究がまたれるところです。

(歴史資料課・古文書担当 山田洋一)

「(二条城米蔵) 仮御役中日記 正月10日条 付：解読文



十日

安井門跡
三宝院
など年番
にて一人ツ、
修法二主たりと
承之
御神樂八
極月 三日より
七日の間也
節会八
正月七日
十四日十六日也
とぞ

晴天余寒強
朝六ツ半時罷出のしめ麻上下二而養源院江源五同道拝礼
夫より所々年礼相動申候
鈴木小右衛門殿旅宿
上林又兵衛殿同
多羅尾治右衛門同

ぎを(女祇園)社務宝寿院

禁裏御修法之護摩(七日より十三日迄有之、其内八毎日

諸人ヲ入レ拜見為仕候由二付 九ツ時源五同道罷越拜見仕候

桑山丹州組同心之小頭世話仕候 東ノ方日ノ御門より入り紫宸殿へ

上り拜見仕候、のしめ麻上下供八侍斗、刀八侍二為持置候

御庭白川沙石 御殿南向 右ノ方二はなれて内侍所ノ御社アリ、

紫宸殿ヨリ十八間長廊下かゝりたり、階、御縁、御柱、おやね等怒而

らんかんミズ等迄も源氏ノ絵二替ルモノなし、紫宸殿天井なし量なし

板敷也、白木ノ焼台多し、あぶら火也、賢聖ノ障子白はり二絵像アリ、

上二銘々名性(姓)を大筆二書記アリ、近衛殿筆之由、四面二七仏十二神將ノ

大かけ物、左右二大ぞうかいこんがうかいのまんだらから、美麗莊嚴

言語不可及、四方二御御簾かゝる、へり八青地ノ布二木瓜ヲ墨二而すりたり、

外御縁廻り紫ノ御幕白紋たき牡丹也、公家衆八不見、出家モ

休息之間二而見へ不申候、参詣ノ男女多し、長上下、麻上下之者

世話仕候也

日ノ御座二八翠簾かゝり内二御屏風立テ見へたり、六畳敷程二見ゆ

ミすの上二太よこ物ノかけ物のごとく物かけらる、竹生嶋の景ノごとく

海中二嶋山ある絵、こくさいしき、其嶋二青龍わかまれる所を書り、

まんだら五大尊七佛等二かくれて、げんぜうの障子ノ絵ニかぬる也

ごまだんニツアリ、日ノ御座の御畳ノへり紅也、出家衆八板敷二

がまの円座いくつモ有テ是二着座と見へたり、

紫震(ママ)殿南ノ階ノ下ニ、右二橋、左二椽アリ、椽八木大也、其外

清涼殿ノ御庭二八木少々見へたり、清涼殿八紫宸殿ノつゞき

西ノ方也、猶其西二御堀アリ、殿上人出入ス秦蘭口と云、此辺へ八

人をよせず、清涼殿の御象んのと三に若僧の鑄子二座したる絵

さいしきに書たり、此外ほり物もなし、白木角柱二而ぎつと見ゆる、

御屋根八ひはだ軒口三尺斗二見ゆ、窓而源氏ノ絵に替事なし、

陣ノ座八下馬ノこしかけノごとく土間二板敷見ゆる、清涼殿ノ前也

無線 LAN 導入のご案内

当館では、無線 LAN 機能のあるパソコンをお持ちになれば、インターネットをご利用いただけるようになりました。これは、京都府が整備した「京都デジタル疎水ネットワーク」の光ファイバー回線を活用し、NPO 法人が運営する「みあこネット」と連携して、公衆無線インターネット接続サービスを行うものです。

府施設でのこうしたサービスの提供は当館が初めてで、全国の公共図書館でも珍しく、近畿では初めての設置となります。

また、マイクロリーダーコーナーでは、パソコン電源用のコンセントもご利用いただけるようになりましたので、ご利用願います。

サービスの概要

- ・利用可能場所 当館 3 階マイクロリーダーコーナー
- ・接続方法 無線受信によるインターネット接続
- ・利用料金 無料
- ・使用パソコン等 Windows Me/2000/XP
又は MacOSX10.2 対応のもの
(ただし、無線 LAN カードや無線 LAN 機能内蔵のパソコンが必要です)

利用方法

- 1 アカウント (IP アドレス、ユーザー名、パスワード) を閲覧室受付で入手
 - 2 各自持ち込みのパソコンを「みあこネット」に接続
 - 3 パソコンにアカウントを入力
 - 4 インターネット開始
- * 問合せ：当館庶務課 TEL 075-723-4831
みあこネット TEL 075-257-3777

友の会事務局から

平成15年度の見学会を、11月5日、6日の両日実施し、154名の会員の皆さんの参加を得て、八幡市の石清水八幡宮、松花堂庭園・美術館、善法律寺、流れ橋を訪ねました。

昼食は少し贅沢に松花堂弁当をいただき、それぞれに趣のある見学先に、秋の1日を満喫しました。

また、11月18日には、京都市伏見区の醍醐寺霊宝館において、100名の会員の皆さんの参加を得て秋の現地講座を実施しました。

説明を受けた後、霊宝館を見学し、三宝院、五重塔などを自由に散策しました。



総合資料館 収蔵品展のお知らせ

当館の所蔵資料を幅広く紹介する「収蔵品展」を次のとおり開催します。是非ご観覧ください。

会期 3月12日(金)～4月上旬(予定)
(3月20日(祝)は休館)
午前9時～午後4時30分
会場 当館2階展示室(入場無料)

「友の会」会員募集

京都府立総合資料館友の会では、平成16年度の会員を次のとおり募集します。

会費 年額 2,000円(4月～翌年3月)
申込方法 所定の申込用紙兼払込取扱票に必要事項を記入の上、会費を郵便局に払い込んでください。
受付期間 1月13日(火)～3月12日(金)
詳しくは友の会事務局(総合資料館庶務課内 TEL 075-723-4831)までお尋ねください。

日 誌 平成15年9月～11月)

- 9. 9(火) 第165回古文書相談開催
- 9.26(金) 府民講座(第11回)開催
- 10. 1(水) 重要文化財指定記念
～26(日) 「革嶋家文書展」開催
- 10.21(火) 府民講座(第12回)開催
- 10.23(木) 公衆無線インターネット利用サービス開始
- 11. 8(土) 開館40周年記念
～12. 7(日) 「総合資料館名品展」開催
- 11.14(金) 府民講座(第13回)開催
- 11.19(水) 収蔵展示室の一般公開
～21(金)
- 11.20(木) 府民講座(第14回)開催
- 11.28(金) 府民講座(第15回)開催

利用案内

休館日 祝日(日曜日の場合は、その翌日)□ A
毎月第2水曜日、資料整理期(春季)
年未年始(12月28日～1月4日)

【1月～3月の休館日】

12月28日(日)～1月4日(日)、1月12日(祝)
1月14日(水)、2月11日(祝)、3月10日(水)
3月20日(祝)

開館時間 午前9時～午後4時30分

交通 京都市地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス、(北8)北山駅前下車
京都バス28、45、46 前萩町下車

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

発行 京都府立総合資料館

京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991)

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1の4

TEL(075)723-4831 FAX(075)791-9466

本誌に関するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。



古紙配合率100%再生紙を使用しています